

## Ⅲ 結果からの考察

教科に関する調査結果と「学びに対する積極性」及び「精緻化」との相関関係は、小学校第6学年以上の学年において正の相関がやや高くなる傾向が見られた。また、教科に関する調査結果と「表層理解」との間には負の相関がみられ、小学校第5学年以上の学年で顕著に見られる傾向にあった。学力ステップが高い児童生徒ほど、学びを広げたり深めたりするために自ら積極的に調べたり学んだりしようとする質問や、学んだことを関連付けたり活用・発揮したりする学習経験についての質問に肯定的に回答していることが分かった。また、学力ステップが低い児童生徒ほど、解き方が分からなくても答えが合っていればよいといった項目に肯定的に回答していることも分かった。

一方、「教科の学習が好き」という質問項目の回答状況を分析すると、教科間で差はあるが、学力との相関が見られた。「自己調整」、「学びに対する積極性」、「体制化」、「精緻化」、「主体的・対話的で深い学び」とも相関が見られた。

以上の結果から、教科の学習が好きであることと、主体的な学びにつながりがあると考えられる。各学校には、児童生徒の「もっと知りたい、探究しよう」とする知的好奇心を活かした授業展開や学習活動の工夫が求められる。そのためには、小学校の低・中学年から、ICT端末の利活用を含め、調べたいことや分からないことがある時に自ら行動できるような学習環境や学習機会の確保が求められる。

授業の中で、児童生徒が自分の考えを表現することや他者との対話に価値を見出し、目的意識をもって学習活動に取り組むことが大切である。

既習事項や他教科の学びを活かす等の学習経験を積むことで、教科の魅力や学ぶ意義を、児童生徒が実感することができると思う。

「主体的・対話的で深い学び」の項目の結果から、中学校は小学校と比較して、教科間で「主体的・対話的で深い学び」からの授業改善に差があることが見受けられた。教科の壁を越えて、学校全体で授業改善に取り組むことで、教科の魅力や学ぶ意義を児童生徒が実感することができると思う。